

せいけん
詩集

第三十四篇

作：近藤せいけん

「幸運 その三」

小田急線本厚木駅前のベンチ 一人の男が

腰かけて 誰かに話かけている

町ゆく通行人から 話し相手は見えない

「生き方を変える 幸せに向かつていけば 本当にそうなるのか」

「そうです あなた次第です」「年令には関係ありません」

「そのための 日々の下ごしらいをすれば 素晴らしい 人生になるでしょう」

「あなたがいままでやって来なかった こと」

「こう成りたい という 夢 希望 チヤレンジ」

「思いえがける 最高の自分を心に描き」

「進むのです 前へ前へと 必ずそうなります」

二〇数年前の隣にかけている自分が 微笑んで

立ち上がった

「きつと 幸せの方向に 踏み出して下さい」

「不幸の中に安住しないで下さい」

「私の未来さん お願ひしますよ」

一陣の風が吹き 音もなく 若者が消えた